

1. すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕えられたひとりの女を連れて来て、真中に置いてから、イエスに言った。「先生。この女は姦淫の現場でつかまえたのです。モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするように命じています。ところで、あなたは何と言われますか。」彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは、イエスを告発する理由を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた。(8:3-6)
 - a. これにはイエスと宗教指導者たちとの間に緊張が高まっていたという時代背景がある。
 - b. 彼らのしたことは間違いを正すという誠実な行為ではなく、むしろ姦淫の場で捕えられた女を利用し、イエスを陥れようとしたのである。旧約の教えに違反して女を赦すのか、あるいは当時ローマの管理下でユダヤ人には認められていなかった死刑を執行するのか、という選択を迫ったのであった。
 - c. これは神のあわれみを示す例として一般に好まれている話であるが、罪を犯して良いという許可を与えているわけではない。これは私たちに罪を犯し免れる権限が与えられる、ということをお教えるための話ではない。

2. けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」そしてイエスは、もう一度身をかがめて、地面に書かれた。彼らはそれを聞くと、年長者たちから始めて、ひとりひとり出て行き、イエスがひとり残された。女はそのままそこにいた。(8:7-9)
 - a. ここで出てくる最大の疑問の一つは、イエスは地面に何を書かれていたのだろうか？ということである。福音書の中でイエスが何かを書かれているのはここだけである。ただし旧約には「神の指」という記述がいくつか出てくる。十戒を書かれた神の指(出エジプト 31:18)、バビロンのベルシャツアル王を裁くため現われた神の指(ダニエル 5:5)などである。
 - b. 残念ながらイエスが何を書かれていたのかは分からないが、その行為は2つの効果をもたらした。人々の注目と非難の目をこの女から遠ざけた。また血が流れる直前で群衆の考えを改めさせた。
 - c. イエスが何かを書かれるという行為とその言葉「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」によって、その緊迫した状況はなだめられた。全員がその場を去り彼女を非難する者はいなくなった、イエスはモーセの律法を乱用することなく守り、同時にイエスを陥れるために利用されようとした女には神のあわれみをかけられた。

3. イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。」彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」(8:10-11)
 - a. この話のポイントは罪深い人たちを守るということではない。誰かが自分や他人の罪を指摘するたびに、「あなたがたのうちで罪のない者が…」と持ち出すべきではない。罪の扱い方には従うべき手順がある(マタイ 18:15-20)。
 - b. ではこの話のポイントは何か？ イエスだけが正義の裁判官であることを私たち、そして世界に示しているのではないだろうか。イエスはうわべやすべての狡猾さを見透かし、正しい審判をされる。イエスは罪をはっきりと宣告できると同時に、「行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」と私たちを解放してくださるお方である。私たちはこのすばらしいお方に信仰を置くことができる。